# 馬　城　会　報　よ　り（1）

２月 28 日発行の馬城会報の一部を抜粋掲載してみる。今年の卒業式は、旧制相馬中学校第１回卒業式（1903 年）から 120 年の節目にあたる。そこで、事務局では、第１回卒業生、折笠晴秀氏と目黒荘氏２人の資料を紹介した。

## 旧制相馬中学校 第一回卒業式より一二〇年

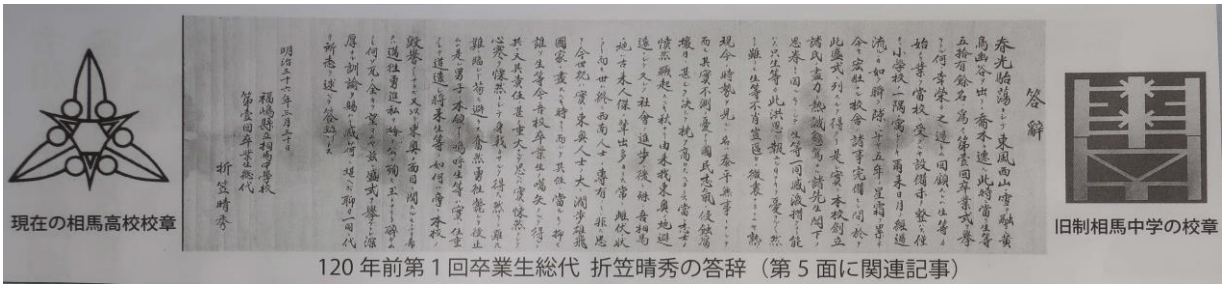
一二〇年前の明治36年（１９０３年）三月、福島県第四尋常中学校として産声を上げた旧制相馬中学校の第一回卒業証書授与式が挙行された。第一回卒業生55名は、その後、東京帝国大学、仙台医専（現・東北大医学部）、早稲田大学等への進学や各方面へ進んで活躍をした。爾来、相馬高校は一二〇年間、今回の卒業生で二万八〇〇名余を数え、有為の人材を輩出している。

今回は、第一回卒業生二人の足跡と資料を紹介したい。

### 折笠晴秀氏

初めての卒業生総代として、答辞を読み上げた折笠晴秀氏は、東京帝国大学医学部へと進学し、後に秩父宮殿下の執刀医となり、当代きっての名医と謳われた。このときの答辞（一面に写真掲載）は、青雲の志に溢れた名文として語り継がれているが、漢文調で書かれており現代の生徒にはなかなかわかりづらいので、生徒にもわかりやすいよう口語訳をしてもらった。

明治 36 年(1903 年)第 1 回卒業生（前列左から 2 人目が折笠晴秀氏）



答辞

春光駘蕩たり東風西山雪融黄鳥囀ずる出づ喬木遠く此時當生等五拾有餘名為る第壹回卒業式擧ること何等榮之遠し回顧すれば生等幼き小學校一隅陶冶し爾来日月飛過流れ如し瞬時にして五年を経過す今や実社会諸事完備し門松の此盛式列する得る是偏に本校創立諸氏並び熱誠慈篤なる諸先生の賜なり恩者に対し生等の此恢恩報ずるの日如何ぞ憂へざる能はざる生等不肖愚鈍なり雖も微衷を以て

現在の相馬高校校章

旧制相馬中学の校章

120 年前第 1 回卒業生総代 折笠晴秀の答辞（第 5 面に関連記事）

答辞原本は相馬高校玄関を入ったＯＢラウンジに展示

答辞

～略～

現在の情勢を見ると平和で安泰な世の中に見えるが、実際は予測しがたい不安がある。国民の気持ちは、その不安に侵され腐敗していくこと日々甚だしい状況である。決して枕を高くして眠ることはできない。まさに志を持つ者が憤然と立ち上がるべき時なのである。

古来、東北地方は都から遠く、長らく社会の進歩から遅れ、とくに、この相馬の地は昔から傑出した人物が世の中で活躍することが少ない土地柄であり、常に、力をためて機をうかがう状況にあった。

しかし、世の中はいつまでも、西日本の人たちが政治を独占すべきではない。

二十世紀は東北地方の人たちが大いに社会に飛び立ち活躍し、国家に尽くすべき時である。そして、その役割を担う者は誰か。私達生徒は今、相馬中学校最初の卒業生であると共に、またその責任のとても重大なことを思えば、恐ろしさで心は寒くなり、恐ろしさで身はおののいてしまう。しかし、困難に臨んで、それを避けず、勇気をふるって立ち向かい、倒れるまで歩みを止めないことは、男子の本望である。

ああ、私達生徒は、実にその役割は重く、道は遠い。

将来、私達がどうなるかは、ただ本校の名誉だけではなく、東北地方の名誉に関わることなのである。

願わくば、勇気をもって立ち向かい、自己を捨てて、社会のために尽くし、五となって砕けるのみ。

どうして瓦であり続けることができようか。

ここに盛大な式を挙行して頂き、意義深い式辞を賜り、感激に堪えません。卒業生一同を代表し将来の志を述べて答辞といたします。

明治三十六年三月三十日
福島県立相馬中学校
第一回卒業生総代
折笠晴秀

口語訳
相馬高校地歴公民科教諭
佐藤宏志（高普36回卒）

（この翌年、明治三十七年二月に日露戦争が起こる。開戦直前の政情不安の世相や、当時の明治政府の薩長閥などに憤慨する様子などが読み取れる）。

折笠晴秀（一八八五～一九八五）　医学博士

～略　歴～

一八八五（明治18）　現在の南相馬市小高区女場に生まれる
一八九八（明治31）　福島県第四尋常中学校入学
一九〇三（明治36）　福島県立相馬中学校第一回卒業生総代、学業および操行優等賞
一九〇三（明治36）　第一高等学校入学（校長・今村有隣・新渡戸稲造）
一九〇七（明治40）　東京帝国大学医学科入学
一九一二（明治45）　細菌学教室・皮膚泌尿器科教室で研究
一九二九（昭和4）　折笠外科・泌尿科専門医院を東京京橋区新富町に開業
一九三九（昭和14）　馬城会初代会長となる
一九四八（昭和23）　秩父宮薨去（昭和24年）
一九五一（昭和26）　秩父宮の侍医となる
一九六五（昭和40）　再び秩父宮薨去に親王を執刀する
80歳にて没す

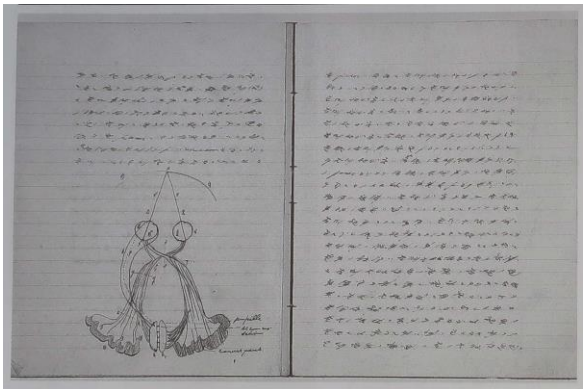
18 歳頃病気療養中に描いた水彩画

## 目黒　荘（さかん）氏

同じく第一回卒業生の目黒荘氏（駒ヶ嶺出身）は、相馬中学校卒業後、仙台医学専門学校（現・東北大医学部）に進学した。当時の医学生時代のノート十冊が、つい最近見つかった。

親戚の目黒達三氏（高13卒、駒ヶ嶺在住）が、二〇二二年三月十六日の大地震で被害を受けた自宅蔵を整理中に、このノートを発見した。後輩の相高生の参考になればと寄贈していただいた。

生理学、外科理論、眼科、婦人科など、ほとんど口述筆記されたものだと思われる。独特の速記体で書かれており判読は難しいが、医学を学びたいという強固な意志と、緻密さ、根気強さがひしひしと感じられ、現代ではもう見られない形の貴重なノートである。



**参考資料**

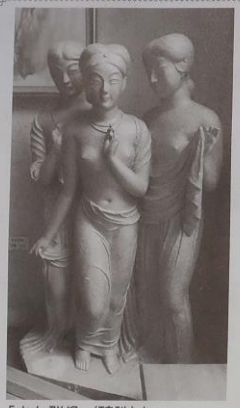
「学友会雑誌 第1号」（明治39年3月　相馬中学校学友会）
相中相高百年史
折笠晴秀医学博士の幻の絵蘇る 「若き日の画帳」 天野史朗

ノート原本は相馬高校玄関を入ったＯＢラウンジに展示

なお、相馬高校所有の美術品も紹介されているので、転載します。

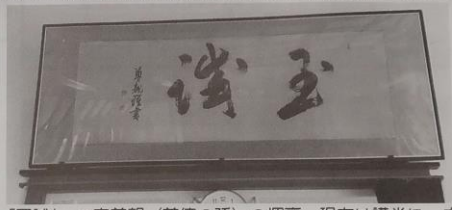
## 相馬高校所有の美術品

校内に飾られている美術品の数々を紹介します。戦前の作品で主なものを載せましたが、この他にも、同窓生の描いた現代アートやすばらしい芸術品の数々が校内に飾られています。



「少女群像（碧珠）」
平沢信男（T12卒）
昭和9年第15回帝展入選作品

「野馬追武者」
藤田　魁（T４卒）
T15～S16　旧制相馬中学
教諭（雅号：魁山）




「至誠」 二宮尊親（尊徳の孫）の揮毫。現在は講堂に、古くは寄宿舎に飾られていた。二宮尊親は、北海道開拓に尽力し、後に高校野球で有名な報徳学園の２代目校長になった。

「門（東大）」
齋藤亮一（T８卒）
第２８回院展入選作品

（ 村山記 ）